



平成26年8月号

目 次

会長の言葉	日本長生医学会会長 柴田政宏
宗教編	
法話	得勝寺本荘一治… 1
長生医学編	
『第2頸椎の押し込み法』の取得	京都府西田順… 3
鼠径部痛症候群（グロインペイン症候群）の一症例	
	三重県中利文… 5
血液から学ぶ ～第2回ケース・カンファレンス・スタディ～	
	旭川支部長 大村和彦… 6
随想編	
ふれあう、ということ	東京都澤理江…10
第24回 北信越連合会医学会に参加して	群馬県都丸亮介…11
お盆	日本長生医学会事務局 早坂チエ子…13
三代澤功先生と共に	長野支部 伊藤嘉健…14
長生会便り	
本部報告	…15
平成27年度(第60期生)長生学園学生募集要項	…19

日本長生医学会

## 会長の言葉

総本山長生寺管長 柴田政宏  
日本長生医学会会長

今年も東北連合会、東海支部、北信越連合会、北海道長生医学連合会、の地方医学会が執り行われております。各支部、連合会の諸先生方のご苦勞に感謝の念が堪えません。長生寺におきましても盂蘭盆会の行事が執り行われました。

盂蘭盆会は「盂蘭盆経」に書かれているお話しに依って行われております。その中で、登場する目連尊者は、御釈迦様の十大弟子の一人として伝えられた人物であります。その母が最愛なる息子が出家したと知ると、悲しみの余り遂に亡くなってしまわれました。後にそのことを知らされた目連尊者は、母君がどこに転生されたのかを尋ね、餓鬼道に落ちられた事をお知りになられ、「衆僧供養」の功績により母君を救済されたと言うのです。このような御先祖様の供養を行い、感謝申し上げるのが盂蘭盆会の行事なのです。

今年も長生医学会関係者7名の方が亡くなりました。これまでのご尽力に対して、本尊阿弥陀如来の御前で感謝申し上げます。

真宗では、「施餓鬼会」が、執り行われませんでした。それは真宗の持つ即得往生の生死観、平生業成の教えによるもの、地獄に落ちずに阿弥陀如来の世界に転生を約束されている我が身であることが大きな理由で有ると考えます。

親鸞聖人は、人は皆、生、老、病、死、の苦しみから解き放たれることは、決してないと教えられております。楽しい記憶は直ぐに忘却し、苦しみ、恨み、妬みなどが心に残るものなのです。歳を重ねれば重ねる程に、人々は人生の目標を見失い、絶望の淵に立たされるものなのです。親鸞聖人のお示しに成られた「絶対他力」に依って私ども凡夫は救済されることに、日々感謝申し上げる、この感謝の世界こそが一筋の光明なのです。

長生上人が私共に残された長生の道、患者さんを治させて頂く、患者さんに感謝される、また、長生上人並びに長生に携わった多くの先達の諸先生方に感謝申し上げることができる我が身であることにまた感謝を感じ得ずにはられません。

合掌